

松江だんだん

会報第7号



国の重要文化財指定「八雲本陣」にて

近畿松江会

ふるさと松江

作詞 近畿松江会

一

神話は語る

佐陀加賀

ご縁嬉し

八重垣

熊野神魂も

鎮座して

だんだん
松江

ふるさと

二

千鳥お城

石垣

嫁が島に

茜さす

松江大橋

カラコロと

だんだん
松江

ふるさと

三

蜆美味し

宍道湖

波に遊ぶ

夕鴨

勾玉湯の町

浴衣がけ

だんだん
松江

ふるさと

四

牡丹薫る

八束路

紫烟けむる

中海

恵比寿シヨコホイ

五本松

だんだん
松江

ふるさと

五

意宇川ほとり

阿陀加夜

城の稲荷

神幸祭

掛声華やか

ホーランエンヤ

だんだん
松江

ふるさと

曲は 故郷（ふるさと）作曲 岡野 貞一

うさぎ追いし かの山・・・

※ 近畿松江会では歌詞を募集しています

ご応募は事務局へお問合せください

目	次
表紙題字	・ ・ ・ ・ ・ 近畿松江会 和田亮介氏
会歌「ふるさと松江」	・ ・ ・ ・ ・ 作詞 近畿松江会
目次「会報第7号」	・ ・ ・ ・ ・ 1
ご 挨拶 近畿松江会 会長 伊藤 征治	・ ・ ・ ・ ・ 2
松江市長 松浦 正敬	・ ・ ・ ・ ・ 4
平成25年度事業報告	・ ・ ・ ・ ・ 6
平成25年度収支決算書	・ ・ ・ ・ ・ 7
平成26年度事業計画	・ ・ ・ ・ ・ 8
平成26年度収支予算書	・ ・ ・ ・ ・ 9
近畿松江会 平成26年度役員名簿	・ ・ ・ ・ ・ 10
近畿松江会 「この一年」	・ ・ ・ ・ ・ 11
特 集【ふるさと訪問バスツアー】	・ ・ ・ ・ ・ 14
◆スケジュール	
◆懇親会参加者名簿	
◆講演「松江のたからもの」講師 高橋一清氏（松江観光協会観光文化プロデューサー）	
◆ふるさと訪問バスツアーに参加して・行程をふりかえって	
◆船場の冗句	
寄稿集 わがふるさと“松江だんだん”	・ ・ ・ ・ ・ 26
◆宍道町 渡部恵美子 ◆八束町 坪山 孝美	
寄 稿	・ ・ ・ ・ ・ 29
◆「裾と夜這い」宍道町 和田亮介	
報 告 全国都道府県対抗女子駅伝（京都）	・ ・ ・ ・ ・ 31
会員名簿（出身町・中小学校区別）	・ ・ ・ ・ ・ 32
広 告	・ ・ ・ ・ ・ 36
お知らせ・編集後記	・ ・ ・ ・ ・ 42

■ご挨拶

会員の皆さまへ 会長 伊藤征治



平成26年度第九回近畿松江会総会及び懇親会は島根半島巡り「ふるさと訪問バスツアー」として企画致しました。

初日は去る5月31日、参加者31名が乗り込んだバスが午前九時、大阪梅田から中国道～米子道～第五大橋～だんだん道路～島根町大芦を經由し島根半島をドライブ、初日の終着点、総会・懇親会の会場

であり、出雲大社のご祭神大国主命(大黒様)のお子である「えべす様」の総本宮、美保神社が鎮座する美保関へと出発致しました。

道中、中国道の加西と勝央のSAで小休憩、蒜山高原センターで昼食を済ませ「加賀の潜戸」巡りの遊覧船乗り場マリンプラザしまねに向かいました。

一同、貸切遊覧船で神話が伝わる「新潜戸」「旧潜戸」の二つの海食洞窟、幾つかの奇岩とともに神秘的な雰囲気堪能、既に夕刻となりましたが宿泊先美保館にチェックインしました。早速美保神社で正式参拝。全員で「ご祈祷」を受け、宮司のお話を拝聴の後、皆様少々お疲れのご様子でしたが、美保館別館において総会のあと高橋一清氏(松江観光協会観光文化プロデューサー)の講演を拝聴。総会における各議案は出席全会一致でご賛同を得て閉会。いよいよ皆様お待ちかねの懇親会の開会となりました。

懇親会には日頃何かとご多用の中、松江市より能海副市長様はじめ関係各部署の方々、また地域協議会の方々ほか多数のご臨席を賜りました事、紙面をお借りし、改めて厚く御礼申し上げる次第です。

懇親会では、本場「関の五本松」節を聴きながら目下、松江市が「松江新名物」として売り出し中、自慢の逸品[松江いわがき]をはじめ地元の美味しい酒肴を十二分にいただき、懇親会は大いに盛り上がりました。参加者そしてご来臨賜った地元の皆様方との親睦を大いに温めていただけたものと思っております。

2日目(6月1日)は美保館にお別れし、改めて地元ガイドの案内で美保神社参拝、かつて同神社の門前町として栄えた青石畳通りを散策のあと、バスに乗り込んで美保関灯台～本庄道の駅～枕

木山の眺望～松江堀川地ビール館(昼食)～国の重要文化財で平成10年には郵政省発行の記念切手「日本の民家」シリーズにも選出されました八雲本陣(和田前顧問のご実家)を木幡家ご内儀のガイドでご案内いただき、一同唯感嘆あるのみでした。

午後4時前に本陣を辞し、宍道ICをスタート、車中、窓外の故郷の風景を名残惜しく眺めながら用意されたクイズ(「船場の冗句」の意味するところ)に思案しつつ松江隠れ名物のいなり寿司を頂き、同8時過ぎに大阪梅田に無事帰着致しました。

幸い旅行中は好天に恵まれ、何よりも参加者のご協力を頂き、何ら事故なく楽しい旅を終えることができました事、主催者を代表致しまして衷心より厚く御礼申し上げます。

おかげさまで近畿松江会も平成18年10月に発足記念総会・懇親会を開催しましてから今回で9回目を終えることができました。

今回の島根半島巡り「ふるさと訪問バスツアー」は、会の目的の一つであります会員相互の親睦を図る一環として、松江市産業観光部にご尽力いただき役員会で検討を重ねて企画立案したものでございます。

さて、松江市の日頃の諸情報につきましては、毎月手許へお届けいただいている市報「松江」を拝読しておりますが、所謂情報化社会の近年になってからは「松江市メールマガジン」「だんだんかわら版」で松浦市長様のご方針をはじめホットニュースを拝読しながら故郷のあれこれに思いを馳せております。

近畿松江会の役員会は、会発足間もなく前蒨田会長の発案により「三水会」と称して原則毎月第三水曜日に集まり、諸々の案件について協議の場として今日まで引き継いでおります。

当会は、僅少ではありますが松江の児童養護施設「双樹学院」への支援をはじめ八束学園の大阪商人体験・地産品販売の応援等、今後とも近畿と故郷松江を結ぶ架け橋として微力ではありますが尽力致したく思っております。

結びに、会員皆様のご健勝を祈念いたしますとともに会発展の礎であります幅広い会員の増強・会員相互の親睦を図っていきたいと考えておりますので、引き続き故郷松江市の益々の発展と共に当会の活動に更なるご支援・ご協力を戴きますようお願い申し上げまして私の挨拶とさせていただきます。

だんだん、だんだん

近畿松江会の皆さまへ 松江市長 松浦正敬



皆さまこんにちは。先日は第9回近畿松江会 総会・懇親会に松江までお越しくださりありがとうございました。今回は残念ながら他の公務のため出席できませんでしたが、盛会であったと聞き、たいへんうれしく、またたいへんうらやましく思ったところです。

さて、松江市は出雲大社の「平成の大遷宮」や全国的なパワースポットブームを受け、観光面で明るい話題が多くなっております。また、最近では高円宮典子さまが出雲大社の千家国麿さんにご婚約されるというたいへんうれしいニュースも飛び込んできたところです。そのような中、昨年1年間の観光入込客数は念願であった1000万人を超え、また宿泊客数も230万人と前年を15%も上回りました。近畿地方からもたいへん多くのおお客様にご来訪いただきました。これも皆さまが日頃から積極的にPRしていただいた賜物であり、たいへんありがたく感じております。そして島根県及び松江市の認知度や関心の高さはますます上昇していると各方面でも報じられています。我々は今後この勢いを継続させていくため、さらに新しいテーマによる観光素材を情報発信していきたいと考えています。とりわけ、松江ならではのテーマである「神話」、「怪談」、「茶の湯文化」を重点的に取り組んでいくことを考えております。

また、今年は、小泉八雲没後110年にあたります。そこで、八雲の魅力と松江の歴史文化を広く紹介するため、7月には、ギリシャで国際シンポジウムが開催されましたし、松江をはじめ国内では、山田太一作で草刈正雄、紺野美沙子さんたちによる「日本の面影」演劇公演などが開催されております。これからも八雲の愛した松江、そして松江の持つ精神的・文化的な魅力をわかりやすく感じてもらう取り組みをさらに進めてまいります。

あわせて特産品の振興にも努めてまいります。松江には、大根島牡丹、西条柿や津田かぶなどの農産品、シジミやイワガキ、サワラなどの水産品、また、「本場の本物」という国のブランド認定を受けた、まる畑ほし柿や松江炭火あご野焼など、どこに出しても負けない数多くの特産品があります。そこで、それらの販路拡大のため、今回皆さまにお越しいただいた「ふるさと訪問バスツアー」のような観光ツアーと特産品を組み合わせたPRを行うなど、今までとは違う取り組みを行ってまいります。今後も皆さまのご感想、忌憚のないご意見をいただきながら、旅行会社

に提案できるようなツアーを造成していきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

最後になりますが、すでにご存じの方が大勢いらっしゃると思いますが、ご当地ソングの女王と呼ばれ、NHK紅白歌合戦も11年連続で出場中の水森かおりさんが、島根を舞台にした曲「島根恋旅」を発売されました。この歌は愛をなくした女性が、この松江の地を訪れ、過去の思いに縁を切り、島根の自然の美しさ、人情に心癒され、そして励まされ、新たな縁に希望を託すというものです。皆さまも是非応援いただき、併せてカラオケでも熱唱いただき、この「島根恋旅」で水森かおりさんが12年連続のNHK紅白歌合戦出場を果たせるよう応援をお願いします。

結びに、来年は近畿松江会が10年という節目を迎えます。ひとくちに10年と申し上げても、発足当時から現在の至るまでにはいろいろな皆さまのお力添えがありました。私もお世話になったお一人おひとりを思い起こしてみると、たいへん感慨深いものがあります。今まで近畿松江会の発展にご尽力された関係の皆さまに深く感謝申し上げますとともに、これからの20年、30年に向かって近畿松江会のますますのご隆盛と、会員の皆さまのご活躍を祈念いたしましてごあいさついたします。

【 記事 】

西日本最大の湖上花火大会「松江水郷祭」は8月9、10日に開かれる予定でしたが台風11号が西日本に接近したため8月30日に延期となり、例年2日間で打ち上げる9,000発を一日で打ち上げました。

水郷祭は松江市商工会が主導で昭和4年に始まり、昭和24年から商工会や市などで構成される水郷祭実行委員会により毎年開催されています。

当日は「松江だんだん祭」も行なわれ、大変盛り上がりました。

今年は各地で中止が相次ぎ、残念に思われた方も多いかと思います。近畿松江会で「水郷祭ツアー」を企画してみたいとも考えます。ご意見をお寄せ下さい。



平成 25 年 度 事 業 報 告

月 日	曜日	時間	行 事 等 の 内 容	場 所
1月11日	金	18:00	役員会 全国都道府県対抗女子駅伝激励会	加茂川館
1月13日	日	9:00	役員会:同上応援	西京極陸上競技場
1月3日～14日		11:00	前進座初春公演「赤ひげ」観劇	京都四条南座
2月 8日	金		児童養護施設「双樹学院」支援金募集案内発送	
2月20日	水	17:30	平成24年度会計 会計監査	大 枿
		18:00	役員会 平成25年度事業計画ほか	
3月 8日	金		「双樹学院」支援金(H25年度第1回)贈呈	
3月15日	金		・荏田会長・有田幹事長・井上幹事・竹谷事務局長:松江市訪問 ・松江市駅前地下駐車場現地視察	関係機関
3月26日	火		第3回 近畿松江会ゴルフ大会	茨木国際ゴルフ倶楽部
4月 1日	月		第8回 近畿松江会総会・懇親会案内発送	
4月10日	水		第41回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会参加	箕面ゴルフ倶楽部
4月17日	水	18:00	役員会 総会・懇親会資料検討	大 枿
5月15日	水	18:00	役員会 総会・懇親会出席状況確認、資料決定	大 枿
5月30日	木	18:00	総会直前役員会 役割分担・タイムスケジュール等確認	大 枿
6月 2日	日	11:00	第8回 近畿松江会総会・懇親会	新阪急ホテル花の間
7月17日	水	18:00	役員会 退任役員「だんだん会」・松江市ものづくりへの支援について	新阪急ホテル董の間
8月25日	日		・荏田顧問・伊藤会長・竹谷事務局長:松江市訪問 〔だんだん祭り〕見学 ・「双樹学院」支援金(H25年度第2回)贈呈	関係機関
9月18日	水	13:30	・八束中学校大阪商人体験地産品販売応援 ・役員会 会報ゲラ拝ほか	天神橋商店街3丁目 へそ
9月26日	水		第4回 近畿松江会ゴルフ大会	茨木国際ゴルフ倶楽部
10月16日	水		役員会 平成26年度総会、懇親会について	
10月19日	木		会報第6号発行	
11月3日	日		第51回近畿島根県人会総会・懇親会	ホテルニューオオタニ
11月7日	水		第42回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会参加	箕面ゴルフ倶楽部
12月初旬			平成26年度年会費納付のお願い発送 平成26年度上期行事予定報告 「双樹学院」支援金(H25年度第3回)贈呈	

平成25年度 近畿松江会 収支決算書

(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

収 入 の 部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
前期繰越金	0	0	0	
年 会 費	510,000	435,000	▲ 75,000	会員145口
総 会 費	880,000	742,000	▲ 138,000	総会
寄 付 金	100,000	0	▲ 100,000	
広 告 料	200,000	174,000	▲ 26,000	全23口
借 入 金	0	1,512,643	1,512,643	竹谷 奨
雑 収 入	150	48	▲ 102	預金受取利子
事 業 費	0	0	0	
合 計	1,690,150	2,863,691	1,173,541	

支 出 の 部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
総 会 費	1,100,000	970,314	▲ 129,686	89名参加 (新阪急ホテル)
広 告 費	42,000	47,000	5,000	年賀・暑中見舞い紙上掲載 (山陰中央新報社) 京都島根県人会記念誌
通 信 費	95,000	72,507	▲ 22,493	切手・ハガキ・メール便
印 刷 費	175,000	156,502	▲ 18,498	会報第6号 (250部)、会議資料・案内チラシ等
事 務 費	50,000	53,642	3,642	HP接続料、コピー紙、文具等
旅 費	70,000	58,650	▲ 11,350	松江市訪問 (荻田会長、有田幹事長、竹谷事務局長ほか)
雑 費	35,000	52,540	17,540	松江市訪問土産代、市町村対抗ゴルフ飲物代 (2回) 他
予 備 費	35,961	21,329	▲ 14,632	女子駅伝祝儀 八束中学激励
事 業 費	30,000	30,000	0	ゴルフ同好会賛助金
払込負担金	25,000	17,970	▲ 7,030	会費、広告費、事業費等手数料払込
借入金補填	32,189	32,189	0	前期借入金
次期繰越金	0	0	0	
合 計	1,690,150	1,512,643	▲ 177,507	

監査の結果、正確に処理、記載されていることを認めます。

平 成 25 年 2 月 17 日

監 事 木 幡 泰 三 (印)

監 事 井 田 満 (印)

平成 26 年 度 事 業 計 画

月 日	曜日	時間	行 事 等 の 内 容	場 所
1月10日	金	18:00	役員会 全国都道府県対抗女子駅伝激励会	加茂川館
1月12日	日	9:00	役員会:同上応援	西京極陸上競技場
1月4日～17日		11:00	前進座初春公演「一本刀土俵入り」ほか観劇	京都四条南座
1月26日	日	11:00	三林京子出演 中村美津子新春特別公演	大阪新歌舞伎座
2月 8日	金		児童養護施設「双樹学院」支援金募集案内発送	
2月17日	月		平成25年度会計 会計監査	
2月19日	水	18:00	役員会 平成25年度決算報告ほか	大 柝
3月 8日	金		「双樹学院」支援金(H26年度第1回)贈呈	
3月19日	水	18:00	役員会 バスツアー旅程、会費ほか決定	大 柝
3月20日	火		第5回 近畿松江会ゴルフ大会	茨木国際ゴルフ倶楽部
3月29日	土	13:30	雀林遊会〔三林京子(蜘蛛の糸)・桂すずめほか(落語)〕	国立文楽劇場
3月31日	月		故郷訪問バスツアー〔第9回 総会・懇親会〕案内発送	
4月16日	水	18:00	役員会 第9回 総会・懇親会次第決定	大 柝
4月17日	木		第43回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会参加	箕面ゴルフ倶楽部
4月25日	金		伊藤会長・井上隆幹事・竹谷事務局長:松江市訪問	関係機関
5月 7日	水	18:00	臨時役員会 バスツアー参加状況確認、参考資料協議	大 柝
5月21日	木	18:00	役員会 役割分担・行程、総会、懇親会等資料確認	大 柝
5月31日 6月 1日	土 日		故郷訪問バスツアー〔第9回 近畿松江会総会・懇親会〕	美保館
以降毎月	第3水		役員会	
8月下旬			「双樹学院」支援金(H26年度第2回)贈呈	
9月17日	水	13:30	八束中学校大阪商人体験地産品販売応援	天神橋商店街3丁目
9月下旬	水		第6回 近畿松江会ゴルフ大会	茨木国際ゴルフ倶楽部
10月初旬	木		会報第7号発行	
11月2日	日		近畿島根県人会総会・懇親会	ホテルニューオオタニ
11月5日	水		第44回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会	箕面ゴルフ倶楽部
12月初旬			平成27年度年会費納付のお願い発送 平成27年度上期行事予定報告 「双樹学院」支援金(H26年度第3回)贈呈	

平成26年度 近畿松江会 収支予算書

(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

収 入 の 部

単位：円

科 目	25年度決算額	26年度予算額	比較増減	備 考
前期繰越金	0	0	0	
年 会 費	435,000	450,000	15,000	150名×3,000円=510,000円
総 会 費	742,000	1,160,000	418,000	ふるさと訪問バスツアー 40名×29,000円
寄 付 金	0	50,000	50,000	
広 告 費	174,000	200,000	26,000	
借 入 金	161,595	0	▲ 161,595	
雑 収 入	48	100	52	受取利子
事 業 費	0	0	0	
合 計	1,512,643	1,860,100	347,457	

支 出 の 部

単位：円

科 目	25年度決算額	26年度予算額	比較増減	備 考
総 会 費	970,314	1,200,000	229,686	40名×30,000円
広 告 費	47,000	43,200	▲ 3,800	年賀・暑中見舞広告(山陰中央新報社)
通 信 費	72,507	75,000	2,493	案内状発送費等
印 刷 費	156,502	160,000	3,498	機関紙発行等
事 務 費	53,642	50,000	▲ 3,642	HP接続料等
旅 費	58,650	40,000	▲ 18,650	松江市訪問(2回)
雑 費	52,540	50,000	▲ 2,540	松江市訪問手土産等
予 備 費	21,329	30,805	9,476	
事 業 費	30,000	30,000	0	ゴルフ同好会助成金
払込料金負担	17,970	19,500	1,530	
借入金補填	32,189	161,595	129,406	
合 計	1,512,643	1,860,100	347,457	

平成26年度 役員名簿

顧問	荻田運三郎（雑賀町・雑賀小学校）
会長	伊藤 征治（北堀町・城北小学校）
副会長	小川 龍朗（島根町・島根小学校）
副会長	有田 嵩（宍道町・宍道小学校）
幹事長	竹谷 奨（八束町・八束学園）
副幹事長	井上 芳子（石橋町・城北小学校）
事務局長（兼務）	竹谷 奨
副事務局長	内部 茂（浜乃木・乃木小学校）
常任幹事（ゴルフ担当）	井上 隆吉（上東川津町・川津小学校）
常任幹事（地域担当）	押田 良樹（大庭町・大庭小学校）
常任幹事（地域担当）	木村 恵吉（雑賀町・雑賀小学校）
常任幹事（地域担当）	木村八重子（東本町・母衣小学校）
常任幹事（地域担当）	武田 貞雄（雑賀町・雑賀小学校）
常任幹事（地域担当）	鶴羽 孝子（西持田町・持田小学校）
常任幹事（広報担当）	松本 耕司（上本庄町・本庄小学校）
常任幹事（地域担当）	渡辺 悟（北田町・母衣小学校）
監事	木幡 泰三（宍道町・宍道小学校）
監事	井田 満（雲南市）

近畿松江会 この一年

平成25年8月～平成26年7月まで
 ☀️平成25年（8月～12月）

☆8月25日（日）

- ・松江市「だんだん祭」を見学
 荻田顧問・伊藤会長・竹谷事務局長
- ・双樹学院へ訪問し、平成25年度第2回支援金を贈呈



☆9月18日（水）9月期 三水会

- ・会報第6号発行直前読み合せ
- ・松江市立八束学園（小中一貫校）8年生が天神橋3丁目「天三おかげ館」にて大阪商人の心得を受講し、2丁目及び3丁目、2箇所で大根（大根島）特産品（牡丹苗、はまぼうふうの漬物）の販売と観光PRを応援しました。
 ※八束学園に限らず、近畿への修学旅行等を実施している小学校、中学校があれば事務局までご連絡ください



☆10月16日（水）10月期 三水会

- ・H25年度事業の反省
- ・H26年度総会・懇親会の取組みについて

☆10月19日（木）

- ・会報第6号 発行



☆9月28日（金）

- ・第4回近畿松江会ゴルフ大会を開催
 於 茨木国際ゴルフ倶楽部
 参加者：21名 順位は僅差
 優勝 二宮龍聖（新雑賀町）N76.0
 準優勝 竹内喜次男（堅 町）N76.0
 3位 伊藤征治（北堀町）N76.4

☆11月3日（日・祝）

- ・第51回
 故郷応援団～みんなで楽しむ近島根県人会
 今回は「出雲地区」担当で当会荻田顧問が実行委員長として盛会裡に催されました。
 また、乾杯酒は松江市から提供があり、松浦市長の音頭で懇親会が始まりました。

☆ 1 月 7 日 (木)

- ・第 4 2 回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会に出場しました。当会から 1 1 名参加、団体戦は C 組の 2 1 位が最高位でした。

☆ 1 月 2 6 日 (火)

- ・双樹学院へ平成 2 5 年度第 3 回支援金を贈呈しました。

☆ 1 2 月初旬

- ・平成 2 6 年度の会費納入のお願いと上期行事予定を発送しました。

※会員数は毎年増えていますが、皆さんお声掛けをよろしくお願いします。

平成 2 6 年 (1 月～7 月)

☆ 1 月 1 3 日 (金) 役員有志 加茂川館

- ・全国都道府県対抗女子駅伝島根県チーム激励会に参加し、激励金を贈呈しました。

☆ 1 月 1 5 日 (日) 随意

- ・全国都道府県対抗女子駅伝を京都西京極陸上競技場、沿道にて応援しました。

※駅伝については特集記事を掲載しました

☆ 1 月 3 日 (火) ～1 4 日 (日) 随意

- ・恒例の劇団前進座初春公演で「一本刀土俵入り」ほかを観劇
於 京都四条南座

☆ 1 月 2 6 日 (日) 随意

- ・名誉会員 三林京子さん出演の「中村美津子新春特別公演」観劇
於 大阪新歌舞伎座

☆ 2 月 8 日 (金)

- ・児童養護施設「双樹学院」支援金募集

☆ 2 月 1 7 日 (月)

- ・平成 2 5 年度会計監査を実施しました。

☆ 2 月 1 9 日 (水) 2 月期 三水会

- ・平成 2 5 年度決算報告
- ・「ふるさと訪問バスツアー」総会・懇親会のスケジュールについて

☆ 3 月 8 日 (金)

- ・双樹学院へ平成 2 6 年度第 1 回支援金を贈呈しました。

※沢山の方々より支援金のご協力をいただきました。ありがとうございました

☆ 3 月 1 9 日 (水) 3 月期 三水会

- ・バスツアー行程、会費ほか決定
行程については会員の皆様の推薦地ほかを参考にさせていただき、松江市産業観光部のご協力を得、充実したものになったと思います。

☆ 3 月 2 0 日 (木)

- ・第 5 回近畿松江会ゴルフ大会開催

於 茨木国際ゴルフ倶楽部

参加者：1 6 名 前回に続き順位は僅差
優 勝 井上伸久 (上東川津町) N74. 0
準優勝 神谷紀男 (上 乃 木) N74. 2
3 位 百合田嘉穂 (会 友) N75. 2

※参加者募集中

☆ 3 月 2 9 日 (土)

- ・雀林遊会
三林京子として 語り (蜘蛛の糸)
桂すずめとして 落語
於 国立文楽劇場

☆3月31日（月）

- ・ふるさと訪問バスツアー 案内状発送
バスツアーのご案内と行程表をお送りしました。

☆4月16日（水）4月期 三水会

- ・総会、懇親会式次第等検討

☆4月17日（水）

- ・第43回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会に出場しました。

当会から9名参加、団体戦は初めて5位入賞。しかしながら上位3チームとの差はかなり大きく、島根県知事杯を受けるにはまだまだです。 **※参加者募集中！**

☆4月25日（金）

- ・松江市訪問

伊藤会長・井上隆常任幹事・竹谷事務局長にて松江市関係課、関係機関を訪問しました。、第9回懇親会開催について説明し、お願事など申し上げました。



また、あくる日はちょうど八束町に於いて「ぼたん祭り」が開催されていたのであちこち見学してきました。

牡丹品評会（これは新品種）



はまぼうふう（白いのが花）



☆5月7日（水）5月期臨時 三水会

- ・バスツアーの参加申込状況報告、行程
総会・懇親会各資料を協議

☆5月21日（水）5月期 三水会

- ・ツアー行程・総会・懇親会の資料を確認し
役割分担等を決定

☆5月31日（日）・6月1日（日）

故郷訪問バスツアー

第9回総会・懇親会開催

※Pー からの特集に掲載

美保神社にて



☆7月16日（水）7月期 三水会

- ・バスツアーの総括
 - ・創立10周年記念総会の取組みについて
- ※新役員として 鶴羽孝子さん（西持田）が新たに加わってくださいました。

平成26年度「ふるさと訪問」バスツアー実行スケジュール

【1日目】 5月31日（土）

8:45 集 合：モード学園前

9:00 発 車

休 憩 加西SA・勝央SA

12:20 昼食 （蒜山高原センター）【31名】

米子道～ 第5大橋 ～ だんだん道路 ～ 島根町大芦 通過

島根町大芦の手前（西持田町日吉）1名下車

14:40 マリンプラザしまね（遊覧船発着場）着

14:50～15:40(50分) 加賀の潜戸遊覧船 【31・1+1=31名】

～移動（島根半島 加賀 →野井→千酌→北浦→美保関）～

17:00 美保神社 参拝「正式参拝・宮司のお話」 【31+2=33名】

美保館 チェックイン 【33+1=34名】

17:50 総会 【22名】

18:40 高橋プロデューサーの講演「松江のたからもの」

19:30 懇親会 松江イワガキ・はまぼうふう：差入れ 関の五本松節

【33名+来賓19名=52名】

21:30 終了

【2日目】 6月1日（日）

7:45 朝食

9:00 美保神社 参拝 ～9:50 美保関青石畳通 まち歩き（ガイド付き）

10:00～10:40 美保関灯台

11:20～11:50 本庄道の駅 12:10～枕木山の眺望

12:50～13:45 松江堀川地ビール館 昼食 地元食材の料理 【31+1=32名】

14:30～15:50 八雲本陣（ガイド付き） 【32-2=30名】

クイズとお楽しみ 【30-1=29名】

休 憩 宍道湖SA・蒜山SA・西宮名塩SA

20:10 大阪着 解散：大阪駅桜橋口付近

平成26年度 近畿松江会 懇親会 参加者名簿

ご来賓

松江副市長	能海 広明
松江市議会議長	三島 良信
松江市政策部長	星野 芳伸
産業観光部長	矢野 正紀
歴史まちづくり部長	安田 憲司
政策部次長	講武 直樹
産業観光部次長	藤原 亮彦
政策部広報専門監	松本 英史
議会事務局次長	遠田 悟
政策部地域振興課長	土江 紀明
産業観光部観光文化課長	二村 眞
政策部秘書広報課長	藤原 雅輝
美保関地域協議会 会長	梅木 武雄
松江商工会議所 常務理事	森 秀雄
(一社) 松江観光協会 常務理事	内田 敏夫
松江観光協会観光文化プロデューサー	高橋 一清 講演「松江のたからもの」
前島根県商工労働部次長(観光担当)	井上 道子
近畿島根県人会 顧問	和田 亮介
京都島根県人会 会長	林 邦幸
嵯山陰合同銀行	
執行役員C R統括部長	杉原 伸治
営業企画部長	糸川 孝一

会員・会友

有田 嵩 (宍道町)	清水 良子 (石橋町)
池田 重利 (安来市)	宍道 弘志 (中原町)
伊藤 征治 (北堀町)	宍道 美穂 (吹田市)
井上 隆吉 (上東川津町)	竹谷 奨 (八束町)
井上 芳子 (石橋町)	田村 稔久 (石橋町)
内部 茂 (浜乃木)	土田 和男 (片原町)
小川 龍朗 (島根町)	鶴羽 孝子 (西持田町)
小川 定男 (大阪市)	花本 博 (美保関町)
小川 ちづる (大阪市)	松本 耕司 (上本庄町)
小高 久始 (宍道町)	松本 美奈子 (枚方市)
片岡 扶美子 (石橋町)	森廣 洋子 (上乃木町)
荻田 運三郎 (浜乃木)	安島 幸雄 (和田見町)
木村 八重子 (東本町)	安島 清子 (吹田市)
京嶋 喜久子 (安来市)	脇田 健晶 (大阪市)
坂口 京子 (高槻市)	脇田 茂子 (大阪市)
佐々木 悦子 (中原町)	

高橋一清氏のお話をお聴きして

高橋一清氏

(松江観光協会観光文化プロデューサー
元文藝春秋各誌編集長)

テーマ「松江のたからもの」

平成 26 年 5 月 31 日 於：美保関「美保館」
松本耕司(広報担当・上本庄町)



本年度の近畿松江会ふるさと訪問バスツアーは島根半島をめぐる旅が企画され、その初日の宿の美保館で、高橋一清氏の講演をお聴きすることができた。

松江、島根を愛されてやまない、また文藝春秋での誠実な編集者人生を歩んでこられた同氏ならではのご講演に深い感銘を受けたのは私だけではなかろうと思う。

そこで、この素晴らしいご講演の内容をできるだけ忠実に再現し、少しでも多くの会員の皆様にお伝えできたらと考え、高橋氏のお許しをいただいて、このご報告を書かせていただいた次第である。

.....

《高橋一清（たかはし かずきよ）氏プロフィール》昭和 19（1944）年、益田市に生まれる。益田中学校、山口高校、早稲田大学を経て、同 42（1967）年 3 月、文藝春秋に入社。各誌編集部員、編集長を平成 17（2005）年 3 月まで務める。その間、日本文学振興会理事、事務局長として芥川賞、直木賞などの運営にあたる。同 17 年の 4 月より松江観光協会に観光文化プロデューサーとして赴任。文化観光を基調とした松江の魅力を国の内外に発信している。また、松江に作家を招聘し、「松江文学学校」を主宰、全国から受講生が来松している。近ごろ、「新作怪談」の執筆を呼びかけ、作品公募をして話題を集めている。著書に『あなたも作家になれる』『編集者魂』『作家魂に触れた』『百冊百話』、編著に『松江観光事典』『和の心 日本の美松江』『松江 文学への旅』『ガイドブック美保関』『石見観光事典』『松江特集』、共編著に『古事記と小泉八雲』がある。日本一の町の文化情報誌といわれる「湖都松江」の編集にあたっている。松江市在住。

高橋氏の講演は美保館の和室に座布団を敷き、丁度寺子屋で先生が生徒に講義をするという形式でおこなわれ、それが今回のテーマにもピッタリあって、訥々とした語り口で、少しでも多くのことを伝えようというお気持ちがうかがえ、参加者もいつしか引き込まれていくという至福のひと時となった。

お話のテーマは、松江には沢山の「たからもの」があることを、松江を郷里とするものはよく認識し、このよさを持続、発展していくよう心がけて欲しいということであったと理解している。

まず、高橋氏は松江を訪れた文豪、作家たちの松江の印象から話を始められた。

（１）作家たちを癒した松江の「水」の力

■芥川龍之介（1892～1927）

失恋の痛手を癒すために、芥川は旧制第一高等学校からの友人、井川（恒藤）恭（松江市生まれ、法学者、初代大阪市立大学学長）に誘われて、大正 4（1915）年 8 月 5 日より 17 日間、松江に滞在しました。そして井川は芥川を海水浴に連れ出すのです。鹿島の古浦、大社の稲佐の浜、大田の波根での海水浴など山陰の大自然に身を投げ出して、すっかり元気を取り戻し、真山の城跡（法吉町、白鹿城の北隣）にも登ったりしています。帰京後、出世作の『羅生門』を書きました。そういう芥川です。松江の印象を「縦横に貫く川の水と多くの木造の橋、水に浮かぶ美しい都市」と書くのはうなづけます。

■志賀直哉（1883～1971） 里見淳（1888～1983）

志賀は後に小説の神様と言われます。志賀にとっての神様はラフカディオ・ハーン（1850～

1904) でした。ハーンの簡明な文章に多くのことを学びました。松江に来たのはハーンへの追慕もあったと思われます。大正 3 (1914) 年 5 月より約百日間、5 歳年下の里見淳とともに松江に滞在しました。二人の松江暮らしの目的は都会での生活、人と人との交渉に疲れた上での「生活の立て直し」でした。廓通いをして、いわゆる花柳病を患ったり、決して健康な暮らしではありませんでした。そういう二人を宍道湖、美保関、加賀の潜戸などの松江の自然が慰めます。志賀も里見も人生苦、創作苦などの転換期にあり、それを乗り越えるきっかけをこの松江滞在で得たようです。志賀はこの間に大山寺蓮浄院へ行きます。そこでの体験を後に『暗夜行路』に生かしています。

芥川も志賀も悩みをかかえていましたが、松江の川、海、自然はそれを癒す力を持っていた。特に『水』の力の偉大さを感じるのです。

■田山花袋 (1872～1930)

花袋は明治 39 (1906) 年 10 月、帰郷した女弟子を広島の上野町に訪ねた後、島根県に入り、松江を訪れ皆美館に宿泊します。女弟子岡田美千代への恋慕を断ち、帰京後にその思いのほどを赤裸々に『蒲団』という小説に書きました。

これが日本特有の小説の形と言われる「私小説」の始まりとなります。

花袋は松江や島根が大好きだったようで、以後、大正 4 年 5 月、大正 12 年 6 月に来訪し、島根の町や村、海や山や川をめぐり歩き、紀行文を残しています。

■島崎藤村 (1872～ 1943)

昭和 2 年 (1927) 年 7 月 8 日より 12 日間、山陰を旅行し、紀行文『山陰土産』を著わしています。この旅では松江が大層気に入り、皆美館に 4 泊して、松江の各所や美保関、そして北浦をめぐっています。旅は次男の鶏二を伴っていました。二人は松江の水の力に身を委ね、体も心も和ませて、「東京に帰るのをやめて、いっそ松江の人になろうか」と語り合ったと書いています。島根半島をめぐり、船から見た絶壁の印象を晩年の『東方の門』に記しています。

足を伸ばした石見では中世の面影が残る益田で雪舟庭園の石の美に感動し、国境いの町津和

野には、信濃と美濃の国境いに生まれた藤村は特別な関心を示しています。中山道の山間の宿場を舞台に、個人の運命と歴史の動向を重ねさせた『夜明け前』を構想中の藤村が、ここで新たに向かう小説への確信を得たと言っているでしょう。

こうしてみると、日本の近代文学の代表的な作品の誕生のすべてに「松江」が大きく関わっていることがわかります。あらためて『水の力』を思います。

(2) 地元の二人の偉人を紹介

外来の文士のことばかり語りましたが、地元の人であり知られていない二人を紹介します。

■もとみちやどんいち本栄屋権市 (美保関七類の漁民)

嘉永 3 (1850) 年に遭難し、2 年間外国で暮らした後、帰還しました。幕末の第 10 代松江藩主松平定安が面会し海外事情を聞きます。権市は名字帯刀の士分に取り立てられ「森脇森之助」となって、軍艦「第一八雲丸」(10 万ドルで買った英国製の鉄の軍艦) の船長を命じられています。幕末のころ松江藩は木綿、人参、タタラなどで豊かな財力を持ち、「第二八雲丸」も所有するほどでした。権市こそ松江版のジョン万次郎とも言うべき人です。

■増田 渉 (中国文学者 1903～1977)

魯迅が最も敬愛した日本人は他でもない増田です。鹿島町恵曇の片句の生まれ。旧制松江高校から東大へと進み、卒業後、訪れた上海で魯迅と出会いました。魯迅という作家と中国の生々しい現実を日本に知らせ、1935 年の『魯迅選集』は当時 10 万部を超える大ベストセラーとなりました。

島根大学に中国文学科をつくり、その後も各地の大学で教え、同学の俊英を育て、多くの文献を残し、日中文化交流に尽力しました。その人柄の良さ、謙虚さ、「含羞(がんしゅう)の人」は松江人の美質として多くの人から慕われています。

(3) 松江城も「たからもの」

松江城は黒板壁で、姫路城のような漆喰壁ではありません。これだと 20 年に一度は塗り替え

が必要です。板壁は100年一度の修復ですみますから、維持管理の経費は五分之一です。その分、民への税も加減されます。城は戦闘を第一の目的においた実用的な作りです。富田城を壊したあとの廃材も活用するなど儉約し、合理的な築城のあとがうかがえます。

また、大坂城より桁行、梁間とも一間づつ狭くするなど、堀尾吉晴が豊臣家への恩顧を忘れないようにしたとも言われています。

「城」は象徴的な建造物です。「松江城」を見て育つ松江の人には、合理的な考えや質素儉約の暮らし方が根づき、言わば松江人の気質を形づくってきたと私は思うのです。

(4) 和譲の精神も「たからもの」

現代を代表する言論人で「知の巨人」と言われている立花隆氏（1940～）が注目すべきこととして「和譲の精神」を挙げています。（2013年6月14日山陰中央新報に寄稿）

その中で、立花氏は出雲大社大遷宮事業に触れ、あらためて「出雲が神話のふるさと」であり、神話が今の出雲の生活空間のあちこちで生きていると感じたと記されています。

そして、スサノオと田中角栄を二つの「荒ぶる神」として比較され、田中角栄の荒ぶる魂を鎮めることができなかったから、その後の日本の政治の救いがたい混迷を招いたように思うとされ、なぜ、現代人はオオクニヌシの「国譲り」の知恵（出雲人のいう「和譲の精神」）に学ぶことができなかったのだろうかと結ばれています。

このような着眼で出雲を観ている立花氏には、さらに理解を深めていただき、新たな発見をしていただきたいと、折あるごとをお願いしているのです。その「古代出雲」発祥の地は、他あらぬ松江なのです。

高橋氏は以上で講演を終えられたが、私たちは何かとても大事なことに気づかされ、松江に生まれてよかった、この「たからもの」を大事にしていこうと、おそらくは皆が思ったのではないだろうか。とても有難く、全員で感謝の拍手を贈った次第でした。

・・・・・・・・

(5) 後日談「花森安治先生」のこと

講演後の懇親会で、私はかつて勤めていた会社での先輩の奥様があの「暮しの手帖」の花森

安治のひとり娘でいらっしゃったことから、一昨年、高橋氏が企画された島根県立美術館での「花森安治展」の御礼を申し上げさせていだいた。

それはそれで終わったと思っていたが、何とその後、高橋氏からご丁寧なお手紙をいただいた。高橋氏にとって花森安治は大変気になる存在で、その原点が旧制高校時代を過ごした松江にあると考えておられ、私との僅かな会話の中でも奇縁を感じたとして、資料まで同封いただくという真にご丁寧なものであった。

私は、高橋氏の編集者魂やお人柄にあらためて触れた思いがし、更にさらに大ファンになった次第である。

■花森安治（編集者 1911～1978）

神戸生まれ、旧制松江高校・東大卒。夫人は松江の人。戦後『暮しの手帖』を創刊。流行を追わず、生活の合理化を図り、ものを大切にと言い続けた。そして、ほかでもない松江には、堅実で合理的な暮らしが受け継がれている。

(6) 終わりに

おそらく、ふるさと松江は、今、高橋氏という松江のよさを発掘、再確認、発信していくための最高のプロデューサーを戴いているのではないかと思う。郷土のために今後のご活躍を心からお願いし、お祈りする次第である。

なお、会員の皆様には、高橋氏の編集者としての半生の記『百冊百話』（青志社刊）と、地域の文化誌として評価の高い松江文化情報誌「湖都松江」（編集統括高橋一清、松江市文化協会刊0852-26-1157）のご購読を是非おすすめしたい。

最後に、高橋氏が紹介する花森安治の言葉を「松江のたからものの一つ」として引用し、ご報告を終わらせていただく。

日本人の暮らし方の、ひとつの原型が、ここにいきているのである。

空気の明るさと、あまさと、この上なく美しい町並みである。日本人みんなの心になぐさめと安らぎを与えてくれるなにかが、ここに生きている。

『暮しの手帖』75号『水の町 松江』（1964年）

「ふるさと訪問バスツアー」に

参加して



荻田 運三郎（雑賀町）

このたびの近畿松江会ふるさと訪問バスツアーに参加して、非常に楽しく愉快で爽快な旅の気分には酔わせていただきました。

伊藤会長・竹谷幹事長・松本常任幹事をはじめ役員皆さまのおもてなしに衷心より感謝申し上げます。

今度の企画は普段松江を訪れてもなかなか足を運べない場所を特選された由、故郷に帰っても公共交通にしか頼れない小生にとっては、美保神社や青石畳通り、地蔵崎付近の日本海の雄大な眺め、枕木山頂からの絶景、新潜戸と呼ばれる長さ200mに及ぶ広い洞内の探勝、最後の宍道・八雲本陣は松江藩主本陣宿を勤め、宮家などの御宿舎となるなど、正面玄関を入り広い土間に立つと、高い屋根裏天井に這う木組みや、麻縄を操って開閉する昔ながらの引窓。右手の壁に掛かる昔の火消し道具は何度見ても飽きることなく、土間を上がって藩主の居間や汲み湯式の湯殿や、尺八の資料や名器の展示品、重要文化財に指定された江戸中期の代表的民家の説明に時を忘れ見学に心癒された。今日では廃止となった家伝料理鴨の貝焼きの名物にはお目にかかれないが、松江中学同期である和田亮介君のエッセイ鴨の貝焼に今は触れるしかない。

ツアー車中の皆さんや懇親会参加の皆さんと、笑顔での談笑がとても楽しかった。

来年の第十回近畿松江会総会が全会員結集した記念総会として開催されますよう祈念して感想文と致します。



鶴羽孝子（西持田町）

初めて「ふるさと訪問バスツアー」に参加させていただきました。これまでの実家に帰って見た“ただの

田舎”とは違い、外からの目線で故郷を見ることができ、今更ながら松江のよさを知ることとなりました。長らく帰郷していなかったので、実家の近くで途中下車させていただき、母と姉の元気な顔を見ることができたことも何よりでした。

一日目、格式ある美保神社への正式参拝とご祈禱で身を清めた後、風情ある「美保館」で島根半島の夜を過ごしました。松江市の重鎮が列席され



盛大な懇親会が繰り広げられるなか、お膳には溢れんばかりの海の幸が並び、これから特産品になるであろう「岩牡蠣」に舌鼓を打ちました。

二日目に訪れた本庄は、実家の隣町でしたが、いつの間にか「弁慶伝説の町」として町おこしされていることに驚きました。「枕木山」は、テレビ塔のある所まで登り、小学校の遠足で何度か来たことを懐かしく思い出しました。

車窓から見る風景、足を踏み入れた旧跡は、美しく歴史の重みがあり、故郷松江はこんなにいいところがたくさんあったのかと、改めて見直しました。また、ツアーに参加されていた方はほとんどが初対面でしたが、一泊旅行をご一緒したことに、出雲の神々が導いた“ご縁”を感じました。



脇田茂子 (大阪市)

古の歴史の彼方に思いを馳せて先人たちの遺した素晴らしい文化や建物に触れ、改めてこの国に生まれ育ち生きている事に感謝できる素晴らしい旅でした。

神々の国、島根の良さとそこに息吹く風土、習慣、どれをとっても大変興味深い事ばかりでした。高橋先生の講演もあつという間に過ぎ、もっと他の話もチャンスがあれば再度聴きたいと思います。

足立美術館にも機会があれば行きたいな！！と望んでいます。



小高久始 (宍道町)

松 江 吟 行

夏の恋潜戸で射抜く的ハート (加賀の潜戸)

潜戸は二度目の訪問です。平成12年母校松江商業100周年記念に参加、その折岐路に立ち寄ったのですが、14年経過後の潜戸の変わりようにビックリしました・

当時は北朝鮮の不審船騒動の直後だけに、沖には海上保安庁の船が停泊、漁港には不審船注意の看板があり緊張感が漂っていました。また越前クラゲの繁殖で魚がいなくなったと船頭さんがボヤいていたっけ。

今回はあの鄙びた漁港が整備され、波止場建物

も立派、潜戸めぐりの舟は船に、船頭さんは船員に、救命胴衣も備わり、賽の河原の船着場、道も綺麗になっていた。

悪路を亡くなった子どもが、よろめきながらやっと辿りつく河原だけに、整備されすぎると賽の河原の持つ幽界幽界の雰囲気が薄れ、私は昔の方がよかった気がする。

観光地として周辺整備は当然と思うが、人工的なものが増え自然が無くなっていくのは寂しい。でも日常は太平洋側で暮らす人間にとって、日本海の水の透明度は素晴らしく、魅力的です。充分癒されました。

今度は荒れ狂う冬の潜戸の海を是非見てみたいとおもいます。

島賊干した青石畳通りゃんせ (美保関)



俯瞰する牡丹の島や光る海 (枕木山より)

本陣の遺影と競う男振り (八雲本陣)



僅か二時間余りの訪問、本陣以外何処にも行けないと解っていても、バスが宍道町に近づくにつれ少年期に育てて貰った所だけに気持ちが高揚する。

宍道駅前をバスが迂回した時昔通学で汽車に遅れまいと懸命に走った道が見え、思わずバスを降りて走りたくなった。

八雲本陣に到着、先ずは玄関口の壁面に取り付けてある江戸時代の火消道具のお出迎えた。子供のころは武器だと思っていた。



建物が、重要文化財だけに古さを保ちながら維持することの大変さを思った。以前に女優の「山本陽子」が本陣を訪ね、木幡家、秘蔵の美術品を拝見、その中で耳掻きする美女の絵画に惚れ込んでいたのをテレビで見たことなど思い出しながら広い邸内を拝見した。

誰かが吹月先生の遺影をみて、和田顧問より男前だと言ったら透かさず和田顧問が「俺のほうが男前だ」と返されて皆爆笑。

表記の季語のない俳句もどきが浮かぶ。

歴史が一杯詰まった八雲本陣前で全員の集合写真を撮る。

猪の道無人駅なり山若葉 (宍道駅)



安島幸雄 (和田見町)

参加させていただき、何かとお世話になりました。

当方は勝手を申し、松江にて途中別れましたが夫婦

ともども楽しい旅でした



佐々木悦子 (中原町)

ふるさと訪問バス旅行はお天気に恵まれ楽しく旅が出来たことを感謝しています。私も急な脚の筋力の

低下で参加できるか案じられましたが、おかげさまで皆さんと一緒できようこんでいます。もう少ししりハビリを頑張り次回も参加できるよう願っています。記念写真は思い出の1ページに加えました。



清水良子 (石橋町)

石橋町で育ちながら加賀の潜戸、本庄枕木山、美保神社も初めてでした。八雲本陣にも感動しました。

そして高橋先生の「松江のたからもの」という講演も改めて松江のすごさを知ることができ、松江に生まれたことを誇りに思いました。先生の「百冊百話」を読み、先生のすごさを知りました。こんな方が松江観光プロデューサーとして10年も松江に住んでおられるとは、もっともっと松江を知りたいと(何も知らなかった)と痛感しました。



花本 博 (美保関町)

故郷訪問バスツアーの目的はなにか。それは県人近畿松江会の目的を達成する手段でなければならない。会目的は何か。それは同郷の物が出来るだけ多くあつまり、仲間意識が高まることだと考えます。その意味で、一般に旅行は後者、即ち仲間意識を向上させる、もっとも効果的な手段だと考えられます。

その意味で、今回の旅行は成功したと私は評価します。ただし、100点ではありません、90点の合格点です。

減点以下のとおりです。

- 1 マリンパーク多古鼻が見学できなかったこと。
- 2 夕食中の演奏を殆ど人が鑑賞しなかったこと
- 3 枕木山の眺望鑑賞が不十分であった

個人的には、歴史の舞台から消え、存在感すら消えつつある我が郷里「福浦」の紹介ができたこと、また、これが芽となりより多くの人に知っていただければ幸いです。

また、私は、ホームページに京都観光案内を連

載中です、関心のある方は見て頂ければ幸いです。

<http://www.eonet.ne.jp/~shujakunisiki>

事務局から総括と反省

今回のバスツアーは感想文をいただきましたように一応は皆様に楽しんでいただけたかなと思いつつ無事、大阪へ帰着いたしました。

行程につきましてはご指摘いただきましたが時間の都合により見学地を削除また下見不十分に付き満足いただける観賞場所の特定ができませんでした。コスト縮減を図り手作りの旅行をと観光会社を通さず企画したものでございます。今後はこのような事のないよう検討に検討を重ね企画したいと反省をし、この場をお借りしお詫び申し上げます。また、宴会中の芸能についても時間調整し、存分に楽しんでいただけるよう努力したいと考えます

それではあらためて写真でツアーをご紹介します。

出 発 前



蒜線高原センターで昼食



遊覧船と加賀の新旧潜戸



美保神社参拝



総 会



高橋先生講演（本文参照）

懇 親 会



開会のことば
副会長 小川龍朗

開会挨拶
会 長 伊藤征治



来賓祝辞
松江副市長 能海広明様

来賓紹介・祝電披露
常任幹事 松本耕司



乾 杯
近畿島根県人会顧問
和田 亮介様

【関の五本松節】



ふるさと「松江」 斉唱



万歳三唱
松江市議会議長 三島良信様



閉会のことば
副会長 有田 嵩



美保港の朝



美保神社参拝

美保関青石畳通 まち歩き



美保関灯台

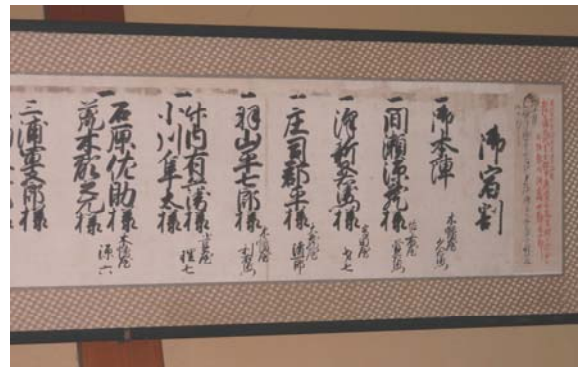


枕木山の眺望（本文参照）

綺麗な花が咲いていました



八雲本陣



大正天皇御座



不昧公を癒した庭園



棟方志功

木幡吹月氏 虚無僧像

船場^{ジョウク}冗句の意とするところ

文章中アンダーライン部の意とするところを教えてください。

※和田亮介氏著書「船場吹き寄せ IV文化と世相」（2007年^{（株）}創元社発行）より

- ①「えらい不景気が続いていますが、なんぞ“白犬のおいど”みたいな話おまへんかいな」
- ②「ところでこの間、備後町の落合屋はん来よって、何や豪儀な話しよったけど、あそこはそないに景気よろしいのか？」
「そんなことおへんで。あの人はいつでも“うどんやの釜”やさかいに」
- ③「碁敵の大和屋はん、ちかごろえらい腕をあげはったらしいおまっせ」
「ホンマかいな、そら“猿の小便”やな」
- ④「どこの店もデフレ、デフレで赤子の行水〔赤子の行水^{たらい} 盥（金が足りない）で泣く〕
何やっても“医者^{じんりき}の車引き”（医者^{じんりき}の 俵 はどちらへ向う？）」

※ある紳士服店主との話

- ⑤「最近こっちのほうはどないです？（小指を立てて）」
「ここんところ“靴べら”ですわ」

ツアーの帰途（車中）でクイズを出題しました。全問正解者なし、3問正解者が4名、そのうち2名の方（脇田茂子さん、小川ちづるさん）へ著者よりサイン入りで「船場吹き寄せ」を贈呈していただきました。

著書文中

人の集まるところ、経済は発展し文化が興る。

その上方文化の一つが笑いである。商は笑なりと音を合わせたのは黄表紙本「春色梅暦」をあらわした為永春水だが、商いは無論のこと、日常会話の中にさえ、あたかもソバのつなぎのように、笑いが練り込まれ、伸びやかで明るい大阪商法が築かれたのだった。

読者のみなさんも考えてみてください。正解は著書をお求めになるか、近畿松江会ホームページをご覧ください。（お求めの場合は事務局までご連絡ください。お取次致します）

寄稿集 “松江だんだん”

会報のニックネーム「松江だんだん」にちなみ、「松江に“だんだん”する」ページをつくりました。

わが町・わが村・・を「語る」内容でも、「思い出」でも、「思い」でもすべて可とし、今年も下記の方々に、謂わば町内代表としてご寄稿をいただきました。

皆で語り継ぐ企画ですから、町内リレー大会のように、次号はあなたにバトンがいくかもしれません。その節はよろしくタノマスケンネ。

■八束町

「故郷大根島の思いで」



坪山 孝美
(宝塚在住)

私の故郷は松江市八束町、通称大根島です。中学まで過ごし、高校の3年間は松江に下宿し、その後、京阪神に住んで46年になります。田舎には、年数回帰ります今は陸続きになり渡し場もなくなりました、待合い時間の出会いもなく、地域の人との会う機会は少なくなりました。子供の頃の大根島の特産物と言えば、養蚕、薬用人参、牡丹の栽培だっと思います。

薬用人参は6年かけて育てます。根は大きいもので、50cm位の長さに成長し、面白いことにその名のとおり人の形をしたものもあり、そのまま掘り出すには大変です。収穫には親戚が助け合い、しゅろの皮で作った自前のたわしや、竹べら等を使いきれいにします、そして大きな「せいろ」で蒸し、乾燥させて出荷していました。蒸し後に沁みでた液を煮詰めて人参エキスを作り、乾燥しきれた髭根を使い人参粉末も作

っていました。実るまでの歳月、子供心にもその過程がわかり、雑に扱えない大切なものであったことを覚えています。

冬季には、母達が麦わらを編んで人参畑の屋根材（6年間を保護）を作っていたのも思い出します。結婚後、里帰りで大雪になった年には、家族総動員で屋根がつぶれないように雪下ろしをしたことも懐かしい思い出です。

今では、特産品として残すため、頼まれて弟が少しだけ栽培し、掘った物はすぐに農協へ集荷して、家で加工することはなくなりました。

養蚕も盛んでした。2階建ての別棟にある養蚕場、桑も育てていました。蚕が繭になる前の蚕拾いや繭取りの時期、よく手伝い繭の優しい感触は今も残っています。繭は、今は、「世界文化遺産に指定された富岡製糸場」を運営していた片倉工業へ出荷していました。先日偶然にも、富岡製糸場を見学する機会があり、製糸場を閉鎖後も片倉工業が保存していたとの説明を聞き、懐かしく思いました。桑の葉が茂り、実がなるころには、今では考えられませんが、子どもたちは、学校帰りによく食べ赤い唇をして帰っていました。

大根島の牡丹園



牡丹の花については子供の頃は、女の方が全国に牡丹の苗売りに出かけていました。情報が少なかった時代でしたので、帰られてからいろ

んな地方の話聞くのが楽しみでした。子供の時には手伝いをした記憶はありません。最近、牡丹の芽を芍薬の根に接ぎ、接いだ物を植える頃に里帰り、ようやく、牡丹の花作りがわかってきました。十数年前は牡丹の開花時期に帰郷すると、人参畑の麦わら屋根の間に一面に牡丹の花が咲いていましたが、最近はその姿もなく休耕地もめだち、雑草に覆われた畑を見ると寂しく時の流れを感じます。

それでも、牡丹の生産は今でも盛んです。

島は8つの集落に分かれています。私が住んでいたのは、所帯数が少ない集落だったので、子どもの遊びといえば、男女、年齢を問わず、集落の中全体を使い鬼ごっこをして走り回りました。春にはレンゲ畑でのかくれんぼ、池でのメダカ取り、家の裏は海、松の木から飛び込んだり、泳いで魚を追いかけたり、夏休みには、近所の先生の家で宿題を持ち寄り皆でワイワイ言いながら遊びも勉強もしました。冬は竹を切って竹スキーを楽しんだりしました。自然の中で、多くの友達と親の背中を見ながら地域の人達に見守られながら過ごした故郷での生活、こちらに住んでからも懐かしい思い出、何にも変えがたい心の財産になっています。

竜溪洞(熔岩洞窟) 大根島



大根島に溶岩洞があるのをごぞんじですか

■ 宍道町

「遠き日の事ども」



渡部 恵美子

(宝塚在住)

宝塚に半世紀近く住み、雲雀丘の坂道を、元気に歩

いており、足腰には自信があった。

まさか八十を過ぎて、障害者になるとは夢にも考えぬ事であった。

昨年十二月、「人工股関節全置換術」で入院、三週間のリハビリを得て退院、今でもリハビリを続けている。雲雀丘の坂は歩けても、八十の坂を越す事は、仲々容易ではないと思い知らされた。

三年前、傘寿の同窓会を最後に、小学校の同窓会も一つの区切りを迎えた。それ以来、古里へ帰る機会は遠のいたが、おまけに足の不自由も加わって、いよいよ古里は遠くなっている。

十八年を過ぎた古里での日々、春は要害山の桜、一度だけ祖母に連れられて、要害山のお祭とて出掛けた事がある。山車に芸者衆がのつての華やぎ、宍道町のよき時代であったろうか - - 要害山と言うと幼い日の、この時を思い出す。

夏は宍道湖で泳ぐ子ども達の歓声。いつも昼過ぎの昼寝の時間頃、歓声を子守歌のように聴きつつ、うとうとした事も――

秋、漁火が美しかった。二階の出窓に腰かけ、飽かず眺めたものである。今では仲々口に入らなくなった“シラウオ”や“ワカサギ”が、その頃は存分にいただけた。

冬は私の苦手な季節、しもやけに悩まされ、湖を渡る風は冷く、湖岸道路はつるつるとすべり、春の訪れをどれ程待った事だろう。

古里を離れて六十数年、福岡、大阪、宝塚と移り、古里で過ごした日々に較べれば、数倍の

長きを、離れた地で暮らしているものの、わずか十八年の古里への思いは、歳を重ねると共に、いよいよ深く、佳き日も悪しき日も、この古里宍道に支えられ、守られて、古里の山河は、まこと父であり、母であり、思い出は。すべて愛であった。

宍道町白石に生まれ育ったが、少しばかり、松江とも御縁があった。今は町名が変わっているかもしれないが、当時は大正町と言ひ、松江駅の裏の方で、家の前が工業学校とそのグラウンドがあり、お隣の坊ちゃまと、グラウンドで「ヨーイ ドン」とかけっこをした思い出もある。小学校二年生の時まで、宍道と松江の家で、それぞれの生活を楽しんだ。

松江に行く時、祖母がいつも汽車の左側に席を取り、松江に近づくと嫁ヶ島を眺めさせた。四、五才頃の記憶である。それ以来、宍道湖と嫁ヶ島の風景は、大切な私の心の風景として刻まれている。

いつも帰郷の折、嫁ヶ島を眺めては、「こんにちは古里さん」と心の中につぶやき、帰る時は、「さようなら古里さん、また来る日までね」と、心の中で別れを告げている。

嫁ヶ島



そして、これも又、遠い日のことになったが、両親の晩年、殊に母は足を悪くして、外出が出来なかった。宍道町に菟古館が出来たのを知らないと言うので、それではと急に思い立ち、両親と私達姉妹三人で菟古館へ出掛けた。

菟古館に入るや、入口正面に、虚無僧姿で尺八をお持ちの、木幡吹月様の、大きな写真があったのを見るや、オヤ - - - と思う程の足どりで、お写真の前に立ち、見上げて、「ダンサン」と言って手を合せた。

私の祖父母、両親共々に、木幡様、木幡様と、常に敬慕し、宍道町の歩みは、常に木幡様と共にあったと思われる。

菟古館を出て、木幡山荘の方へゆっくりと散策した。これが母と共に町内を歩いた最後となった。

松江市宍道菟古館(まつえしんじしゅうこかん)



五月の、ゴールデンウィークの頃で、宝塚から高速バスで帰郷する車窓より、あちこちの山の中に、山藤が美しく眺められたのが、印象的だったが、山荘にも、山藤が静かに咲いていて、この藤をバックにみんなで写真を撮った。

かけがえのない「ふるさと宍道」、「ふるさと松江」があつてこそ、八十余年の人生を、健やかに、生きて来れたのであろう。

願わくば、再び古里を訪ねる事が出来るようにと、祈りつつ――

裾 と 夜 這 い



和田亮介（宍道町）

♪ こわた ほうき
宍道木幡に 簾 はいらぬ

しゅうと
嫁や 姑 の裾で掃く

わが故郷に伝わるこの盆踊り唄、私の生家「八雲本陣」を詠んだものだが、今の人達には何のことか、見当がつかないかもしれない。

「嫁や姑が着物の裾を曳く」、このことが嘘ではないと言い切れるのは、その裾を踏んだのが、間違いなくこの私だからだ。

踏んだのは曾祖母の裾、その婆さんは日に一度、奥の隠居部屋を出て長い廊下を通り、表の部屋までやってくる。そして街道に面した高窓から、道を行きかう町の人々を、ゆっくり眺めるのが唯一の楽しみだった。

八十の坂をとっくに越した、この曾祖母が着物の裾を曳きながら、ゆっくりやって来るのを、^{ついたて}衝立の陰でじっくり待つ四才のチビは、この私だ。やがて現れた彼女をやり過ごし、ひそかにうしろへ廻って、その裾をひょいと踏む、獲物は、ものの見事につんのめるのだ。

今にして思えば、この婆さん、よくもまあ怪我をしなかったものだ。起き上がった気丈な彼女、オノレ！と叫んでどこまでも追いかけ、遂に^{つか}掴まえた私の耳を、千切れるほどにひねり上げる。そのすさまじい鬼婆の形相は、今でも目に焼きついて離れない。

＊ ＊ ＊

盆踊りといえば、もう一つ傑作がある。

♪ さんぶいち おなご よ ば
坂田三分市 女子の夜這い

男寝て待ちや気は楽だ

世の男にとって、まことに羨ましいお盆の夜の情景だが、残念ながら、わが町に伝わる盆唄ではない。美しい築地松といえば、言わずと知れた^{しゅっとう}簸川平野にあった、かつての 出 東村、坂田と三分市の二つの集落を詠ん^よ

だものだ。

この集落は、古くから美人の産地として誉が高く、その地区の婦人は顔の彫りが深く、目を見張る美人が今でも多いのだという。

ただ、美人というだけなら格別のことはないが“夜這い”という男の特権を奪うとなると、只事ではない。

盆踊りという特別な季節、胸に一物の男どもを差置いて、女子が夜這う逆転現象は、一見男にとって楽のようだが果たしてどうか。

何故^{なぜ}といって、寝て待つ男すべてが夜這いの恩恵に浴すわけではないからだ。待てど暮せど猫一匹では、それこそ浮かばれない。

坂田と三分市、二つの集落に詳しいある先輩に訊ねたら、この“女夜這い”大正末期までは本当にあったのだと言う。

斐伊川デルタ地帯の農村婦人は、古来甚だ進歩的、かつ行動的だった。今に遺^{のこ}されたこの文句、実に面白く描写している。

「楽に寝て待つ男の果報、外れ籤^{くじ}ひく男ぞあわれ」とならなければよいのだが。



皇后杯第32回全国都道府県対抗女子駅伝を応援

平成26年1月10日 激励会・12日 応援

近畿松江会は京都島根県人会のお声かけをいただき、大会設立の翌年（平成18年）から些少ですが激励金を贈り応援しています。

今年も元気な14歳から30歳の選手たちが都大路で襷をつなぎました。昨年2時間20分57秒 29位でしたが、今大会はアンカーの浅羽さんの6人抜きを持ってしても残念ながら2時間23分41秒の37位でした。

選手としてのエントリーは14名、そのうち現平田高校の3名を含め4名が松江第一中学校の出身、現役生徒です。（学年は大会時）

田中真愛さん（平田高校3年）：写真左

小笹美波さん（平田高校2年）

野坂美帆さん（平田高校2年）

福田翔子さん（松江一中3年）：写真右

平田高校3年、田中真愛さんは中高生のリーダーとして合宿をまとめてきたとのこと、今年は4区（4km）を走りましたが、総合45位で襷を引き継ぎましたが区間33位と検討しました。

激励会で現役中学生の福田翔子さんにお話をお聞きしましたのでご紹介します。

出場は昨年に続き2回目、好きな言葉は「努力」、好きな食べ物は？特に好き嫌い無し。また、普段よく聞く歌（音楽）は？これも特にないのとの回答でした。

さて、今年の受け持ち区間は3区、45位で襷を受け取り、区間32位でつなげました。中学生区間は3kmでよほどのことがない限り、順位を大幅に上げることができませんが、大健闘でした。

現在、志望どおり、松江北高校に進学し春の県大会では800mに出場し優勝するなど、頑張っているとのこと。来年も高校生として山藤泰俊監督の下、都大路を走ってくれることを期待しましょう。

みなさんも来年は是非、京都市左京区の西京極競技場で（京都島根県人会のあったかい蕎麦を食べ）応援をお願いします。

（担当：竹谷）



会 員 名 簿 (中・小学校区別)

平成26年9月現在

- ①”ふるさと”に密着した「会員名簿」とするため、中・小学校区(通学区域)と、皆様から申告いただいている「出身町」をあてはめて作成しました。
 ②不具合、間違いがあります場合は、事務局までご一報いただければ幸いです。
 ⇒(注)島根大学付属小(中)学校は、この表には記載していません。

校区／出身町	通学区域・町名／会員氏名
【一中校区】	
生馬小	(上佐陀町一部、下佐陀町、西生馬町、東生馬町、薦津町、浜佐田町一部)
内中原小	(殿町一部、西茶町、東茶町、芋町、中原町、片原町、外中原町、内中原町、末次町、堂形町、砂子町、国屋町、黒田町一部、浜佐田町一部、千鳥町、南平台)
城北小	(北堀町、奥谷町、東奥谷町、石橋町、大輪町、湊北台、法吉町一部、春日町一部、黒田町一部、菅田町一部)
法吉小	(比津町、比津が丘、法吉町一部、西法吉町、春日町一部、黒田町一部)
<石橋町>	井上 芳子(高槻市) 清水 良子(茨木市) 田村 稔久(豊中市) 永井 ひろし(京都市)
<内中原町>	千葉 新一(池田市)
<奥谷町>	乾 チカコ(大阪市)
<片原町>	土田 和男(大阪市) 村上 勝美(三島郡島本町)
<北殿町>	三島 薫(生駒市)
<北堀町>	伊藤 征治(奈良市) 平山 武秀(箕面市) 山口 茂(京都市)
<黒田町>	山口紀子(神戸市)
<湊北台>	山田 敬子(吹田市)
<殿町>	飯塚 満男(茨木市)
<堂形町>	小田 一美(奈良市)
<中原町>	佐々木 悦子(吹田市) 佐藤 栄治(西宮市) 宍道 弘志(吹田市)
<東生馬町>	青戸 俊夫(神戸市) 藤原 敬(松江市)
<東奥谷町>	
<法吉町>	由木 文彦(東京都) 景山 克雄(八尾市)
【二中校区】	
朝酌小	(西尾町、朝酌町、福富町、大井町、大海崎町)
川津小	(菅田町一部、西川津町一部、上東川津町、下東川津町)
母衣小	(末次本町、東本町、殿町一部、母衣町、北田町、南田町、米子町、向島町、西川津町一部、学園南、学園)
持田小	(福原町、坂本町、川原町、東持田町、西持田町、上本庄町一部)
<上東川津町>	井上 隆吉(高槻市) 井上 伸久(高槻市)
<北田町>	渡辺 悟(吹田市) 大浦 綾子(西宮市)
<末次本町>	山田 稔(富田林市) 三成 宏二(木津川市)
<西尾町>	篠木 豊(大阪市)
<西持田町>	鶴羽 孝子(尼崎市)
<東本町>	木村 八重子(八尾市) 永江 幹雄(神戸市) 一軸保志郎(堺市)
<母衣町>	川角 十四枝(高槻市) 大野 賢造(川西市) 篠田いづみ(豊中市)
<南田町>	松井 恵(京都市) 山崎 晃(西宮市) 松本幸子(大阪市)
<米子町>	永瀬光一郎(芦屋市)

校区／出身町	通学区域・町名／会員氏名
【三中校区】	
雑賀小	(栄町、新町、松尾町、雑賀町、堅町、本郷町、西津田一部、上乃木一部)
中央小	(天神町、白潟本町、灘町、魚町、八軒屋町、和多見町、寺町、横浜町、幸町、袖師町、嫁島町、伊勢宮町、御手船場町、大正町、新雑賀町、東朝日町、朝日町、津田町、西津田一部、西川津町一部)
○平成7年4月1日 白潟小学校 + 朝日小学校 ⇒ 中央小学校	
<朝日町> <伊勢宮町> <雑賀町> <白潟本町> <新町> <新雑賀町> <大正町> <堅町> <天神町> <灘町> <東朝日町> <本郷町> <横浜町> <和多見町>	岡 茂(大阪府豊能郡) 竹谷 曜子(大阪市) 宮内 玲子(大阪市) 奥村 伸子(豊中市) 荻田 運三郎(明石市) 木村 恵吉(吹田市) 篠崎 一浩(神戸市) 澄川 光成(河内長野市) 武田 和子(宝塚市) 福岡 則博(宝塚市) 江角 要一(大阪市) 武田 貞雄(堺市) 斎尾秀城(神戸市) 中村 博行(名張市) 永井 彰(大津市) 仁宮 龍聖(高石市) 赤井 真一郎(大阪市) 望月 修一(豊中市) 茂居理智子(堺市) 竹内喜次男(高槻市) 佐藤早智子(茨木市) 長谷川 忠雄(奈良県北葛城郡) 菊池 尅雄(神戸市) 荻田 京子(松江市) 岡本 由美(伊丹市) 安島幸雄(吹田市)
【四中校区】	
古志原小	(古志原一部、八雲台、上乃木一部、一の谷町)
津田小	(東津田町、古志原一部、西津田一部)
【湖南中校区】 ○昭和50年4月1日 新設	
忌部小	(西忌部町、東忌部町、玉湯町一部)
乃木小	(上乃木一部、浜乃木町、浜乃木、乃白町、乃木福富町、田和山町、西嫁島)
<上乃木> <古志原町> <西津田> <浜乃木> <東津田町>	神谷 紀男(堺市) 田中 英明(交野市) 森廣 洋子(松江市) 坂本 隆男(大津市) 曾田 良子(奈良市) 三代 知範(神戸市) 平山 恭子(大阪市) 井々 乃かな(高槻市) 内部 茂(茨木市) 荻田 莞爾(松江市)
【湖東中校区】 ○平成5年4月1日 新設	
大庭小	(大庭町、山代町、古志原一部、佐草町、大草町、矢田町一部)
竹矢小	(矢田町一部、青葉台、竹矢町、馬潟町、八幡町、富士見町)
<大草町> <大庭町> <馬潟町> <山代町> <八幡町>	足立秀之(茨木市) 押田 良樹(吹田市) 松尾 年浩(高槻市) 大野 徹(奈良市)

校区／出身町	通学区域・町名／会員氏名
【鹿島中校区】	
鹿島東小	鹿島町(御津、上講武、南講武、北講武、名分一部)
惠曇小	鹿島町(惠曇、手結、片句、佐陀本郷一部、武代一部、古浦一部)
佐太小	鹿島町(佐陀宮内一部、佐陀本郷一部、武代一部、古浦一部、名分一部)
<鹿島町>	宇藤 二男丸(和泉市) 坂井 茂子(亀岡市) 山本 雅昭(大阪市)
【湖北中校区】	
	○平成6年4月1日 古江中学校 + 秋鹿中学校 + 大野中学校 ⇒ 湖北中学校
秋鹿小	(秋鹿町、岡本町、大垣町)
	○平成22年4月1日 中島小学校 + 秋鹿小学校 ⇒ 秋鹿小学校
大野小	(大野町、上大野町、魚瀬町)
長江小	(東長江町、西長江町)
古江小	(古曾志町、西谷町、古志町、荏成町、西浜佐陀町、上佐陀町一部)
	○平成23年4月1日 長江小学校 + 古江小学校 ⇒ 古江小学校
<秋鹿町>	
<岡本町>	折坂栄久(河内長野市)
<東長江町>	和田 寛(河内長野市)
【島根中校区】	
	○平成16年4月1日 島根中学校 + 野波中学校 ⇒ 島根中学校
島根小	(島根町)
	○平成17年4月1日 大芦小学校+加賀小学校+野波小学校 ⇒ 島根小学校
<島根町>	小川 龍朗(京都市) 客野 伸(神戸市) 藤城 坦(神戸市)
【宍道中校区】	
大谷小	宍道町(上来待和名佐地区)
来待小	宍道町(東来待、西来待、上来待)
宍道小	宍道町(宍道、伊志見、白石、佐々布、昭和)
<宍道町>	有田 嵩(寝屋川市) 池尻 和子(東大阪市) 伊藤 雅義(京都市) 小田 兼久(豊中市) 川島 俊雄(川西市) 木原 貢(豊中市) 小高 久始(堺市) 木幡 泰三(寝屋川市) 木幡 晃正(篠山市) 梶月 禧暉(宝塚市) 高木 征次(交野市) 武田 精(八尾市) 田中 晨子(枚方市) 土江 安雄(堺市) 飛田 藤夫(大阪市) 永原 忠巳(茨木市) 光田 仁一(奈良市) 渡部 勇(宝塚市) 渡部 恵美子(宝塚市) 和田 亮介(豊中市) 阪本浩吉(枚方市)
【玉湯中校区】	
大谷小	玉湯町(大谷一部)
玉湯小	玉湯町(布志名、湯町、林、玉造一部、大谷一部)
<玉湯町>	長谷川 紀美子(奈良県北葛城郡)
【本庄中校区】	
本庄小	(手角町、長海町、野原町、枕木町、邑生町、新庄町、上宇部尾町、本庄町、上本庄町一部)
<上宇部尾町>	内田 美二(伊丹市)
<上本庄町>	松本 育郎(堺市) 松本 耕司(枚方市) 松本明夫(伊丹市) 松本芳樹(豊中市)
<新庄町>	寺前 澄子(高槻市)
<手角町>	北林 栄(堺市)
<本庄町>	面白 紘(橿原市) 坪倉 司郎(川西市) 山内 和美(吹田市) 三代 雅樹(加古川市) 田部拓生(奈良市)
<枕木町>	木島 光子(大津市)

校区／出身町	通学区域・町名／会員氏名
【美保関中校区】 ○平成7年4月1日 美保関北中学校 + 美保関南中学校 ⇒ 美保関中学校	
美保関小 (美保関町)	○平成13年4月1日 美保関小学校+森山小学校+福浦小学校⇒美保関東小学校 ○平成13年4月1日 七類小学校+片江小学校⇒美保関北小学校 ○平成18年4月1日 美保関東小学校+千酌小学校+美保関北小学校⇒美保関小学校
<美保関町>	愛田 幾也(神戸市) 梅木 隆志(大阪市) 花本 博(城陽市)
【八雲中校区】	
八雲小 (八雲町)	
<八雲町>	石倉 文行(豊中市) 藤田 宏(堺市) 藪田 とし江(大阪市)
【八束学園校区】 ○平成23年1月1日 小中一貫教育校として発足	
八束学園 (八束町)	
<八束町>	岩田 太(神戸市) 門脇 基(茨木市) 門脇 幸夫(大阪市) 川原 ひろ子(豊中市) 河野 宗子(草津市) 高瀬 保子(豊能町) 高橋 小梅(東大阪市) 竹谷 奨(大阪市) 坪山 孝美(宝塚市) 福屋 篤子(豊中市) 松本 悟(大東市)
【東出雲中校区】 ○平成23年8月1日 八束郡から松江市に合併	
出雲郷小 (出雲郷地区)	
揖屋小 (揖屋地区)	
意東小 (意東地区)	
<東出雲町>	桑原 隆(松江市) 萩野 貫悟(吹田市)

■【松江市外出身の会員】	
<安来市>	荒銀 昌治(西宮市) 石田 裕子(大阪市) 京嶋喜久子(松江市) 千葉 潮(吹田市)
<出雲市>	杉谷 百合子(京都市) 竹内 一郎(大阪市) 鳥屋尾 勇(大阪市)
<雲南市>	井田 満(大阪市)
<温泉津町>	林 邦幸(京都市)
<浜田市>	北島 幸子(豊中市)
<京都市>	小川 ますみ(京都市)
<明石市>	小松 雅子(明石市) 藤原 浩子(三木市)
<姫路市>	山本 達郎(姫路市)
<呉市>	荻田 チェミ(明石市)
<萩市>	守田 宣昭(松原市)

■【名誉会員】	
<大阪市>	三林 京子(大阪市)

◆ご贈答・お歳暮・お中元・日々の食卓に◆

日本海の荒波で育ったヘルシーで、美味しい魚だけを
ひと塩、ふっくらな食感に仕上げました

こだわりの 一夜干し

創業天保年間

泉屋商店

島根県松江市鹿島町恵曇港^{えとも}

TEL.0852-82-0015/0056 FAX.0852-82-2700

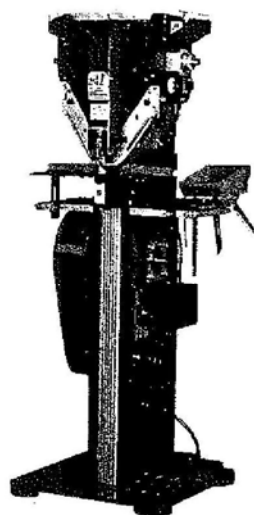
URL: <http://etomo-izumiya.com/>

株式会社トーヨーコーポレーション

山本雅昭

自動ホック打機 TM—200V

累積生産台数 8,000 台を誇る
伝統を持つ代表機種 TM—200 をベースに
プラスチックホック専用機種として、世界に
先駆けて開発



プラスチックホック

ベビーウェア及び各種アパレル製品に最適な
軽くてソフトな肌触りのプラスチックホック



プラスチックホック・精密機械製造販売

精密金型 設計・製作

武 田 精 機 株 式 会 社

TAKEDA SEIKI CO., LTD

代表取締役 武田 精

本 社

〒581-0041

大阪府八尾市北木の本
1丁目12番地

TEL : 072 (923) 5181

FAX : 072 (923) 5186

大阪営業所

〒541-0056

大阪府中央区久太郎町
1丁目8-11

TEL : 06 (4705) 7500

FAX : 06 (4705) 7433

三重工場

〒518-1155

三重県伊賀市治田
字大沢3090-23

TEL : 0595 (20) 9051

FAX : 0595 (20) 9052


 株式会社 **はーとケアグループ**
 代表取締役 **下田 弘子**
 (京都島根県人会 副会長兼事務局長)

私達は
 皆様の笑顔が輝くように
 真心でサポートします

健康 **介護**

〒607-8162 京都市山科区柳辻草海道町12-7 タケナカビル5階
 TEL: 075-583-2611 FAX: 075-592-1022

リバティー  株式会社川商
リバティーいちご

LIBERTY

管理者 **若松 ひろ子**
 〒542-0081
 大阪府中央区南船場3丁目1-7
 日宝東心斎橋ビル6階1号
 TEL: 06-6281-3722
 FAX: 06-6281-3723

ユニフォームはレンタルの時代へ!!
HANSHIN 阪神ユニフォーム販売 有限
 会社


 東北1000プロジェクト
 Reconstruction 1000 Projects
 for Tohoku / www.tohoku1000.jp

復興支援活動を応援します。

本 社 〒540-0021 大阪市中央区大手通2-3-17
 TEL06-6943-6990 FAX06-6943-6980
 E-mail: hanshin@hanshin-uniform.jp
<http://www.hanshin-uniform>


 ~あなたの勇気がいのちを救う~
 (心肺蘇生法とAEDの活用の普及)
NPO法人 大阪ライフサポート協会

事務局 **松本 耕司**
 Koji Matsumoto

〒533-0033
 大阪市東淀川区東中島1-17-5 ス튜디오新大阪416
 TEL: 06-6370-5883 FAX: 06-6370-5884
 E-Mail: matsumoto@osakalifesupport.jp
 URL: <http://osakalifesupport.jp/>
 大阪府AEDマップ <http://osakaaed.jp/>



縁結
 松江観光大使
 近畿松江会
 常任幹事
木村 八重子
 〒581-0015 八尾市刑部1-354
 松江城
 天守は、山麓を唯一
 現存する隅指定重要
 文化財。

島根大根島 だいこんじま
ぼうふう
 天ぷらに、茶碗むし
 お吸い物に、
 茶碗むし
 茶碗むし
 松江八東町波入2040番地
 JAくにびき はまぼうふう生産組合
 電話0852-76-2525

いろいろゆたかな、
 地元の旬の食材をたっぷりと。

お気軽に
 お立ち寄りくださいませ


 matsue horikawa


 堀川 → ラウンジ京 徒歩3分

京
 ラウンジ京

松江市片原町113 / TEL 0852-27-8888

松江・京店 / TEL 0852-21-8384

TEL 松江市母衣町五五一六

松江商工会議所
会長 古瀬 誠
副会長 大谷 厚
副会長 田江 泰彦
副会長 有澤 寛

まちの達人が
あなたをもう一つの松江に
お連れします。
ガイドと一緒に、
'おちらと'歩いてみませんか？



【問い合わせ先】

(一社) 松江観光協会 松江おちらとあるき観光案内所
TEL 0852-26-2011 FAX 0852-28-5931
〒690-0003 島根県松江市朝日町JR松江駅北口

関乃五本松節保存会

会長 鷗 鷲 修 一
審査部長 三角 邦 男
〒690-1311 松江市美保関町七類3246-1
メテオプラザ内
TEL 0852-72-3939
FAX 0852-72-3888

〒534-0024

大阪市北区中之島二丁目三番三十三号
(大阪三井物産ビル十三階)
TEL 〇六(六二〇二) 〇三〇一
FAX 〇六(六二〇二) 〇三〇六

山陰合同銀行 大阪支店
支店長 井田 満

山川・朝夕 本舗
風流堂

本店 〒690-0061 松江市白潟本町15
TEL 0852-21-2344 風流堂 検索



日本料理
松江 和以
Japanese Traditional Restaurant
松江駅北口から徒歩5分

松江市御手船場町565
Tel 0852-21-0029

営業時間 11:30~14:00
17:30~22:00

女将 吉岡 朋子

山陰・美保関

国登録有形文化財

美 保 館

国文化財の宿 美保館本館

〒690-1501 松江市美保関町美保関570
TEL (0852) 73-0111 FAX (0852) 73-0112
URL-<http://www.mihokan.co.jp>
Email : osktake@ff.iiij4u.or.jp

佐和田登記測量事務所(松江市)顧問
近畿飯南会顧問 縁結び相談ボランティア

佐 和 田 丸

〒573-1182 枚方市御殿山町 11-33-610

電話・fax 072-848-7417

e-mail : malu122@nifty.com

HP <http://simane.do47.net/kadoya.html>

- ・求妻 本人 1979 年生 大学院修了 茨木市内神社跡取
- ・求妻 本人 1965 年生 阪大薬卒業薬剤師 土地家屋調査士

島根県人の溜り場
活旬 だいます
大 栴
大阪市天王寺区玉造元町三二
電話 〇六―六七六八―九七六七
代表取締役 鳥屋尾 勇
(出雲市出身)



株式会社 エ ル ム 不動産

代表取締役 木村 恵吉

Keikichi Kimura
宅地建物取引主任 大阪第091986号

〒532-0003
大阪市淀川区宮原2丁目12番14-207号室
TEL 06-4807-7676 FAX 06-4807-7677
携帯:080-3108-3330

篠崎倉庫株式会社

代表取締役会長 篠 崎 治

〒650-0023 神戸市中央区栄町通4-1-11
TEL 078-341-6721 FAX 078-361-3647

その他事業所 神戸市中央区弁天町(シーガルハーバービル)

神戸市中央区栄町通(エタニティ栄町ビル)

神戸市兵庫区築地町

神戸市灘区灘浜町(シー・スクエア摩耶)

大阪市豊中市向丘(豊中ビル)

前進座初春特別公演

2015年1月10日(土)～19日(月)

五味康祐/原作
ジェームス三木/脚本・演出

薄桜記

はくおうき

2012年NHKでドラマ化され、絶賛を浴びた感動の話題作!
【お問合せ】前進座 京都営業所 ☎075-561-6300

四
京
都
南
座

不動産コンサルティング 顧問 有限会社

不動産のことならお気軽にご相談下さい。



有限会社 エグスパートナース

近畿松江会副事務局長

代表取締役

うち べ

しげる 茂

〒531-0075 大阪市北区大淀南1-4-18
ウェスティンホテル向かいです。

Tel 06-6452-5581 / Fax 06-6452-5455

URL <http://www.eks-p.com/> E-mail info@eks-p.com

近畿松江会

常任幹事兼ゴルフ担当 井上 隆吉
副幹事長 井上 芳子

〒569-1147

高槻市土室町23-4

TEL・FAX 072-696-7334

TAトータルプランニング

お墓の移転、改葬、建立・墓埋法手続
仏像の修理、販売等ご相談に応じます

代表 竹谷 奨

〒543-0014 大阪市天王寺区玉造元町2-34

TEL 090-3054-9159 FAX 06-6221-5741

Email : osktake@ff.ij4u.or.jp

近畿松江会

顧問 荻田 運三郎

〒674-0074

明石市魚住町清水2249-5

TEL・FAX 078-943-1500

近畿松江会

副会長 有田 嵩

〒572-0042

寝屋川市東大利町23-4

TEL・FAX 072-826-0151

近畿松江会

会長 伊藤 征治

〒631-0837

奈良市若葉台1-3-2

TEL・FAX 0742-46-5649